

晋书目录

卷一 帝纪第一		卷十九 志第九	
高祖宣帝懿	1	礼上	98
卷二 帝纪第二		卷二十 志第十	
世宗景帝师	5	礼中	105
太祖文帝昭	6	卷二十一 志第十一	
卷三 帝纪第三		礼下	112
世祖武帝炎	9	卷二十二 志第十二	
卷四 帝纪第四		乐上	117
孝惠帝衷	15	卷二十三 志第十三	
卷五 帝纪第五		乐下	121
孝怀帝炽	18	卷二十四 志第十四	
孝愍帝邰	20	职官	126
卷六 帝纪第六		卷二十五 志第十五	
中宗元帝睿	22	舆服	132
肃宗明帝绍	25	卷二十六 志第十六	
卷七 帝纪第七		食货	137
显宗成帝衍	27	卷二十七 志第十七	
康帝岳	29	五行上	141
卷八 帝纪第八		卷二十八 志第十八	
孝宗穆帝聃	30	五行中	148
哀帝丕	32	卷二十九 志第十九	
废帝海西公弈	33	五行下	156
卷九 帝纪第九		卷三十 志第二十	
太宗简文帝昱	34	刑法	164
孝武帝曜	35	卷三十一 列传第一	
卷十 帝纪第十		后妃上	
安帝德宗	38	宣穆张皇后	171
恭帝德文	41	景怀夏侯皇后	171
卷十一 志第一		景献羊皇后	171
天文上	41	文明王皇后	171
卷十二 志第二		武元杨皇后	172
天文中	49	武悼杨皇后	172
卷十三 志第三		左贵嫔	173
天文下	58	胡贵嫔	174
卷十四 志第四		诸葛夫人	174
地理上	67	惠贾皇后	174
卷十五 志第五		惠羊皇后	175
地理下	75	谢夫人	175
卷十六 志第六		怀王皇太后	175
律历上	79	元夏侯太妃	175
卷十七 志第七		卷三十二 列传第二	
律历中	83	后妃下	
卷十八 志第八		元敬虞皇后	176
律历下	90	豫章君	176

明穆庾皇后.....	176	整弟竟陵王楸.....	200
成恭杜皇后.....	176	望弟太原成王辅.....	200
章太妃.....	176	辅弟翼.....	200
康献褚皇后.....	176	翼弟下邳献王晃.....	200
穆章何皇后.....	177	晃弟太原烈王瑰.....	201
哀靖王皇后.....	177	瑰弟高阳元王珪.....	201
废帝孝庾皇后.....	177	珪弟常山孝王衡.....	201
简文宣郑太后.....	177	衡弟沛顺王景.....	201
简文顺王皇后.....	178	彭城穆王权.....	201
孝武文李太后.....	178	孙紘.....	201
孝武定王皇后.....	178	紘子俊.....	201
安德陈太后.....	178	高密文献王泰.....	201
安僖王皇后.....	178	子孝王略.....	201
恭思褚皇后.....	178	略兄新蔡武哀王腾.....	202
卷三十三 列传第三		腾子庄王确.....	202
王祥.....	179	略弟南阳王模.....	202
弟览.....	179	模子保.....	202
郑冲.....	180	范阳康王绥.....	202
何曾.....	180	子觊.....	202
子劭 遵.....	181	济南惠王遂.....	203
石苞.....	182	曾孙勋.....	203
子崇.....	183	谯刚王逊.....	203
欧阳建.....	184	子闵王承.....	203
孙铄.....	184	承子烈王无忌.....	204
卷三十四 列传第四		无忌子敬王恬.....	204
羊祜.....	184	恬子忠王尚之.....	204
杜预.....	187	尚之弟恢之 休之 允之.....	205
子锡.....	188	韩延之.....	205
卷三十五 列传第五		恬弟愔.....	205
陈骞.....	189	高阳王睦.....	205
子舆.....	189	任城景王陵.....	205
裴秀.....	189	弟顺.....	206
子颀.....	190	西河繆王斌.....	206
秀从弟楷.....	191	卷三十八 列传第八	
楷子宪.....	192	宣五王 文六王	
卷三十六 列传第六		平原王幹.....	206
卫瓘.....	193	琅邪王伉.....	206
子恒.....	194	子覲 濟 繇 淮.....	206
孙瓌 玠.....	195	清惠亭侯京.....	207
张华.....	196	扶风王骏.....	207
子 祎 隼.....	197	子畅 歆.....	207
刘卞.....	197	梁王彤.....	208
卷三十七 列传第七		齐王攸.....	208
宗室		子蕤 赞 寔.....	209
安平献王孚.....	199	城阳王兆.....	210
子邕.....	199	辽东王定国.....	210
邕弟义阳成王望.....	199	广汉王广德.....	210
望子河间平王洪.....	200	乐安王鉴.....	210
洪子威.....	200	乐平王延祚.....	210
洪弟随穆王整.....	200	卷三十九 列传第九	

王沈	210	虞弟峤	235
子浚	211	石鉴	236
荀頌	212	温羨	236
荀勖	212	卷四十五 列传第十五	
子藩	213	刘毅	236
藩子遼 囧	214	子暉	238
藩弟组	214	程卫	239
组子奕	214	和峤	239
冯紞	214	武陔	239
卷四十 列传第十		任恺	239
贾充	215	崔洪	240
孙资	216	郭奕	240
充弟混	217	侯史光	240
族子模	217	何攀	240
郭彰	217	卷四十六 列传第十六	
杨骏	217	刘颂	241
弟珧 济	218	李重	245
卷四十一 列传第十一		卷四十七 列传第十七	
魏舒	219	傅玄	246
李熹	219	子咸	247
刘寔	220	咸从父弟祗	249
弟智	222	卷四十八 列传第十八	
高光	222	向雄	250
卷四十二 列传第十二		段灼	250
王浑	222	阎缵	253
子济	223	卷四十九 列传第十九	
王潜	223	阮籍	255
唐彬	226	兄子咸	256
卷四十三 列传第十三		咸子瞻	256
山涛	226	瞻弟孚	256
子简	228	从子修	257
简子遐	228	族弟放	257
王戎	228	放弟裕	257
从弟衍	229	嵇康	257
衍弟澄	230	向秀	259
郭舒	231	刘伶	259
乐广	231	谢鲲	259
卷四十四 列传第十四		胡毋辅之	260
郑袤	232	子谦之	260
子默	232	毕卓	260
默子球	233	王尼	260
李胤	233	羊曼	260
卢钦	233	弟聃	261
子浮	233	光逸	261
弟珽	233	卷五十 列传第二十	
珽子志	233	曹志	261
志子湛	234	庾峻	262
华表	234	子珉 珉弟敷	262
子虞	234	郭象	263
虞子恒	235	庾纯	263

子勇	264	丑子總	300
秦秀	264	丑弟札	300
卷五十一 列传第二十一		札兄子筵	301
皇甫謐	265	周访	301
子方回	267	子抚	302
摯虞	268	抚子楚	302
束皙	269	楚子琮	302
王接	271	琮子虓	302
卷五十二 列传第二十二		抚弟光	302
郤诜	272	光子仲孙	302
阮种	273	卷五十九 列传第二十九	
华谭	274	汝南文成王亮	303
袁甫	275	子粹 矩	304
卷五十三 列传第二十三		矩子祐	304
愍怀太子	275	兼	304
子彪 臧 尚	277	宗	304
卷五十四 列传第二十四		熙	304
陆机	277	楚隐王玮	304
孙拯	281	赵王伦	305
陆云	281	齐王冏	307
弟耽	282	郑方	308
从父兄喜	282	长沙王义	308
卷五十五 列传第二十五		成都王颖	309
夏侯湛	282	河间王颢	310
弟淳	284	东海孝献王越	310
淳子承	284	卷六十 列传第三十	
潘岳	284	解系	312
从子尼	286	弟结	312
张载	288	结弟育	312
弟协	289	孙旂	312
协弟亢	290	孟观	312
卷五十六 列传第二十六		牵秀	312
江统	291	缪播	313
子彪 惇	293	从弟胤	313
孙楚	293	皇甫重	313
子众 洵 纂	294	张辅	313
纂子统 绰	294	李含	314
卷五十七 列传第二十七		张方	314
罗宪	295	阎鼎	315
兄子尚	295	索靖	315
滕修	296	子琳	316
马隆	296	贾疋	316
胡奋	296	卷六十一 列传第三十一	
陶璜	296	周浚	317
吾彦	297	子嵩 谟	317
张光	298	从父弟馥	318
赵诱	298	成公简	318
卷五十八 列传第二十八		荀晞	318
周处	299	华轶	320
子丑	299	刘乔	320

孙耽·····	321	鼻子達·····	355
耽子柳·····	321	戴若思·····	355
卷六十二 列传第三十二		弟邈·····	356
刘琨·····	321	周顗·····	356
子群·····	324	子闵·····	357
琨兄與·····	324	卷七十 列传第四十	
與子演·····	324	应詹·····	357
祖逖·····	324	甘卓·····	358
兄纳·····	325	邓騫·····	359
卷六十三 列传第三十三		卞壺·····	359
邵续·····	326	从父兄敦·····	361
李矩·····	327	刘超·····	361
段匹碑·····	327	钟雅·····	362
魏浚·····	328	卷七十一 列传第四十一	
族子该·····	328	孙惠·····	362
郭默·····	328	熊远·····	363
卷六十四 列传第三十四		王鉴·····	364
武十三王·····	329	陈頴·····	365
元四王·····	330	高崧·····	365
简文三子·····	332	卷七十二 列传第四十二	
卷六十五 列传第三十五		郭璞·····	366
王导·····	334	葛洪·····	369
子悦 恬 洽 协 劭 荟·····	336	卷七十三 列传第四十三	
洽子珣 珉·····	336	庾亮·····	369
劭子谧·····	337	子彬 羲 稣·····	372
卷六十六 列传第三十六		弟悛 冰 条 翼·····	372
刘弘·····	338	卷七十四 列传第四十四	
陶侃·····	339	桓彝·····	374
子洪 瞻 夏 琦 旗 斌 称 范 岱·····	341	子云·····	375
兄子臻·····	342	云弟豁·····	375
臻弟與·····	342	豁子石虔·····	375
卷六十七 列传第三十七		虔子振·····	375
温峤·····	342	虔弟石秀等·····	376
郗鉴·····	345	豁弟秘·····	376
子愔·····	346	秘弟冲·····	376
愔子超·····	346	冲子嗣·····	377
愔弟昱·····	347	嗣子胤·····	377
昱子恢·····	347	嗣弟谦·····	377
鉴叔父隆·····	347	谦弟修·····	378
卷六十八 列传第三十八		徐宁·····	378
顾荣·····	348	卷七十五 列传第四十五	
纪瞻·····	349	王湛·····	378
贺循·····	351	子承·····	378
杨方·····	352	承子述·····	379
薛兼·····	352	述子坦之 伟之·····	379
卷六十九 列传第三十九		坦之子恺 愉 国宝 忱·····	381
刘隗·····	353	愉子绥·····	381
孙波·····	354	承族子峤·····	381
刁协·····	354	袁悦之·····	382
子鼻·····	355	祖台之·····	382

荀崧·····	382	石兄子朗·····	405
子蕤 羨·····	383	朗弟子邈·····	405
范汪·····	383	卷八十 列传第五十	
子宁·····	384	王羲之·····	405
叔坚·····	385	子玄之 凝之 徽之·····	407
刘惔·····	385	徽之子桢之·····	408
张凭·····	385	徽之弟操之 献之·····	408
韩伯·····	386	许迈·····	408
卷七十六 列传第四十六		卷八十一 列传第五十一	
王舒·····	386	王逊·····	409
子允之·····	387	蔡豹·····	409
王廙·····	387	羊鉴·····	409
弟彬·····	388	刘胤·····	409
彬子彪之·····	388	桓宣·····	410
王棱·····	389	族子伊·····	410
虞潭·····	389	朱伺·····	411
孙啸父·····	390	毛宝·····	412
兄子璩·····	390	子穆之 安之·····	412
顾众·····	390	孙璩·····	412
张回·····	390	宗人德祖·····	413
卷七十七 列传第四十七		刘遐·····	413
陆晔·····	391	邓嶽·····	413
弟玩·····	392	子遐·····	414
玩子纳·····	392	朱序·····	414
何充·····	392	卷八十二 列传第五十二	
褚璽·····	393	陈寿·····	414
蔡謨·····	393	王长文·····	415
诸葛恢·····	395	虞溥·····	415
殷浩·····	395	司马彪·····	415
顾悦之·····	396	王隐·····	415
蔡裔·····	397	虞预·····	416
卷七十八 列传第四十八		孙盛·····	417
孔愉·····	397	干宝·····	417
子汪 安国·····	397	邓粲·····	417
弟祗·····	398	谢沈·····	417
从子坦 严·····	398	习凿齿·····	418
从弟群·····	399	徐广·····	419
群子沉·····	399	卷八十三 列传第五十三	
丁潭·····	399	顾和·····	419
张茂·····	400	袁瑰·····	420
陶回·····	400	子乔·····	420
卷七十九 列传第四十九		乔孙崧·····	421
谢尚·····	400	瑰弟猷·····	421
谢安·····	401	从祖准·····	421
子琰·····	402	准孙耽·····	421
琰子混·····	403	耽子质·····	421
安兄奕·····	403	质子湛 豹·····	421
奕子玄·····	403	江道·····	421
安弟万·····	404	从弟灌·····	422
万弟石·····	404	灌子绩·····	422

车胤·····	422	王豹·····	448
殷颙·····	423	刘沈·····	449
王雅·····	423	麴允·····	449
卷八十四 列传第五十四		焦嵩·····	449
王恭·····	423	贾浑·····	449
庾楷·····	424	王育·····	449
刘牢之·····	424	韦忠·····	450
子敬宣·····	425	辛勉·····	450
殷仲堪·····	425	刘敏元·····	450
杨佺期·····	427	周该·····	450
卷八十五 列传第五十五		桓雄·····	450
刘毅·····	428	韩阶·····	450
兄迈·····	429	周崎·····	450
诸葛长民·····	429	易雄·····	450
何无忌·····	430	乐道融·····	451
檀凭之·····	430	虞悝·····	451
魏咏之·····	431	沈劲·····	451
卷八十六 列传第五十六		吉挹·····	451
张軌·····	431	王谅·····	451
子寔·····	432	宋矩·····	452
寔弟茂·····	433	车济·····	452
寔子骏·····	434	丁穆·····	452
骏子重华·····	434	辛恭靖·····	452
华子耀灵·····	437	罗企生·····	452
灵伯父祚·····	437	张祗·····	452
灵弟玄靓·····	437	卷九十 列传第六十	
靓叔天锡·····	438	良吏	
卷八十七 列传第五十七		鲁芝·····	453
凉武昭王李玄盛·····	438	胡威·····	453
子士业·····	441	杜軫·····	453
卷八十八 列传第五十八		窦允·····	454
孝友		王宏·····	454
李密·····	442	曹掾·····	454
盛彦·····	443	潘京·····	454
夏方·····	443	范晷·····	454
王裒·····	443	丁绍·····	455
许孜·····	443	乔智明·····	455
庾袞·····	444	邓攸·····	455
孙晷·····	444	吴隐之·····	455
颜含·····	445	卷九十一 列传第六十一	
刘殷·····	445	儒林	
王延·····	446	范平·····	456
王谈·····	446	文立·····	457
桑虞·····	446	陈邵·····	457
何琦·····	446	虞喜·····	457
吴逵·····	446	刘兆·····	457
卷八十九 列传第五十九		汜毓·····	457
忠义		徐苗·····	457
嵇绍·····	447	崔游·····	458
从子含·····	448	范隆·····	458

杜夷	458
董景道	458
续咸	458
徐邈	458
孔衍	459
范宣	459
韦謏	459
范弘之	460
王欢	461

卷九十二 列传第六十二

文苑

应贞	461
成公绥	461
左思	462
赵至	463
邹湛	463
枣据	464
褚陶	464
王沉	464
张翰	464
庾阐	464
曹毗	465
李充	465
袁宏	466
伏滔	468
罗含	468
顾恺之	469
郭澄之	469

卷九十三 列传第六十三

外戚

羊琇	470
王恂	470
弟虔 恺	470
杨文宗	470
羊玄之	470
虞豫	470
子胤	470
庾琛	471
杜乂	471
褚哀	471
何准	471
子澄	471
王濛	471
子修	472
王遐	472
王蕴	472
褚爽	472

卷九十四 列传第六十四

隐逸

孙登	473
----	-----

董京	473
夏统	473
朱冲	474
范粲	474
子乔	474
鲁胜	474
董养	475
霍原	475
郭琦	475
伍朝	475
鲁褒	475
汜腾	475
任旭	475
郭文	476
龚壮	476
孟陋	476
韩绩	476
谯秀	476
翟汤	476
子庄	477
郭翻	477
辛谧	477
刘麟之	477
索袭	477
杨柯	477
公孙凤	478
公孙永	478
张忠	478
石垣	478
宋纤	478
郭荷	478
郭瑀	478
祈嘉	479
翟劭先生	479
谢敷	479
戴逵	479
龚玄之	479
陶淡	480
陶潜	480

卷九十五 列传第六十五

艺术

陈训	481
戴洋	481
韩友	483
淳于智	483
步熊	483
杜不愆	483
严卿	483
阮瓘	483
卜珣	484

鲍靓	484
吴猛	484
幸灵	484
佛图澄	484
麻襦	486
单道开	486
黄泓	486
索统	486
孟钦	487
王嘉	487
僧涉	487
郭摩	487
鸠摩罗什	487
昙霍	488
台产	488
卷九十六 列传第六十六	
列女	
羊耽妻辛氏	489
杜有道妻严氏	489
王浑妻钟氏	489
郑袤妻曹氏	490
愍怀太子妃王氏	490
郑休妻石氏	490
陶侃母湛氏	490
贾浑妻宗氏	490
梁纬妻辛氏	490
许延妻杜氏	490
虞潭母孙氏	490
周顗母李氏	490
张茂妻陆氏	490
尹虞二女	490
荀崧小女灌	490
王凝之妻谢氏	491
刘臻妻陈氏	491
皮京妻龙氏	491
孟昶妻周氏	491
何无忌母刘氏	491
刘聪妻刘氏	491
王广女	491
陝妇人	491
靳康女	492
韦逞母宋氏	492
张天锡妾阎氏薛氏	492
苻坚妾张氏	492
窦滔妻苏氏	492
苻登妻毛氏	492
慕容垂妻段氏	492
段丰妻慕容氏	492
吕纂妻杨氏	492
李玄盛后尹氏	493

卷九十七 列传第六十七

四夷

东夷	493
夫余国	493
马韩	494
辰韩	494
肃慎氏	494
倭人	494
裨离等十国	494
西戎	494
吐谷浑	494
焉耆国	495
龟兹国	496
大宛国	496
康居国	496
大秦国	496
南蛮	496
林邑	496
扶南	496
北狄	496
匈奴	496

卷九十八 列传第六十八

叛逆

王敦	497
沈充	501
桓温	501
孟嘉	504

卷九十九 列传第六十九

桓玄	504
卞范之	508
殷仲文	508

卷一百 列传第七十

王弥	509
张昌	510
陈敏	510
王如	511
杜曾	511
杜弢	512
王机	512
祖约	513
苏峻	513
孙恩	514
卢循	515
谯纵	515
载记序	516

卷一百一 载记第一

前赵

刘元海	516
子和	518
刘宣	518

卷一百二 载记第二		苻生.....	562
前赵		苻雄.....	563
刘聪.....	519	王堕.....	563
子粲.....	523	卷一百十三 载记第十三	
陈元达.....	524	前秦	
卷一百三 载记第三		苻坚上.....	564
前赵		卷一百十四 载记第十四	
刘曜.....	524	前秦	
卷一百四 载记第四		苻坚下.....	569
后赵		王猛.....	574
石勒上.....	529	苻融.....	575
卷一百五 载记第五		苻朗.....	575
后赵		卷一百十五 载记第十五	
石勒下.....	534	前秦	
子弘.....	538	苻丕.....	575
张宾.....	539	苻登.....	577
卷一百六 载记第六		索泮.....	578
后赵		徐嵩.....	579
石季龙上.....	539	卷一百十六 载记第十六	
卷一百七 载记第七		后秦	
后赵		姚弋仲.....	579
石季龙下.....	543	姚襄.....	580
子世 遵 鉴.....	545	姚萇.....	580
冉闵.....	546	卷一百十七 载记第十七	
卷一百八 载记第八		后秦	
前燕		姚兴上.....	582
慕容廆.....	548	卷一百十八 载记第十八	
裴嶷.....	550	后秦	
高瞻.....	550	姚兴下.....	585
卷一百九 载记第九		尹纬.....	588
前燕		卷一百十九 载记第十九	
慕容皝.....	550	后秦	
慕容翰.....	552	姚泓.....	589
阳裕.....	553	卷一百二十 载记第二十	
卷一百十 载记第十		后蜀	
前燕		李特.....	592
慕容儼.....	553	李流.....	593
韩恒.....	556	李庠.....	594
李产.....	556	卷一百二十一 载记第二十一	
产子绩.....	556	后蜀	
卷一百十一 载记第十一		李雄.....	594
前燕		李班.....	595
慕容暕.....	557	李期.....	596
慕容恪.....	559	李寿.....	596
阳骛.....	560	李势.....	597
皇甫真.....	560	卷一百二十二 载记第二十二	
卷一百十二 载记第十二		后凉	
前秦		吕光.....	597
苻洪.....	560	吕纂.....	600
苻健.....	561	吕隆.....	601

卷一百二十三 载记第十三

后燕

慕容垂..... 602

卷一百二十四 载记二十四

后燕

慕容宝..... 605

慕容盛..... 606

慕容熙..... 608

慕容云..... 608

卷一百二十五 载记第二十五

西秦乞伏 北燕冯

乞伏国仁..... 609

乞伏乾归..... 610

乞伏炽磐..... 611

冯跋..... 612

冯素弗..... 614

卷一百二十六 载记第二十六

南凉

秃发乌孤..... 614

秃发利鹿孤..... 615

秃发傉檀..... 615

卷一百二十七 载记第二十七

南燕

慕容德..... 618

卷一百二十八 载记第二十八

南燕

慕容超..... 621

慕容钟..... 623

封孚..... 623

卷一百二十九 载记第二十九

北凉

沮渠蒙逊..... 623

卷一百三十 载记第三十

夏

赫连勃勃..... 626

晋书

卷一

帝纪第一

宣 帝

宣皇帝讳懿，字仲达，河内温县孝敬里人，姓司马氏。其先出自帝高阳之子重黎，为夏官祝融，历唐、虞、夏、商，世序其职。及周，以夏官为司马。其后程柏休父，周宣王时，以世官克平徐方，锡以官族，因而为氏。楚汉间，司马卬为赵将，与诸侯伐秦。秦亡，立为殷王，都河内。汉以其地为郡，子孙遂家焉。自卬八世，生征西将军钧，字叔平。钧生豫章太守量，字公度。量生颍川太守俊，字元异。俊生京兆尹防，字建公。帝即防之第二子也。少有奇节，聪明多大略，博学洽闻，伏膺儒教。汉末大乱，常慨然有忧天下心。南阳太守同郡杨俊名知人，见帝，未弱冠，以为非常之器。尚书清河崔琰与帝兄朗善，亦谓朗曰：“君弟聪亮明允，刚断英特，非子所及也。”

汉建安六年，郡举上计掾。魏武帝为司空，闻而辟之。帝知汉运方微，不欲屈节曹氏，辞以风痹，不能起居。魏武使人夜往密刺之，帝坚卧不动。及魏武为丞相，又辟为文学掾，敕行者曰：“若复盘桓，便收之。”帝惧而就职。于是，使与太子游处，迁黄门侍郎，转议郎、丞相东曹属，寻转主簿。从讨张鲁，言于魏武曰：“刘备以诈力虏刘璋，蜀人未附而远争江陵，此机不可失也。今若曜威汉中，益州震动，进兵临之，势必瓦解。因此之势，易为功力。圣人不能违时，亦不失时矣。”魏武曰：“人苦无足，既得陇右，复欲得蜀！”言竟不从。既而从讨孙权，破之。军还，权遣使乞降，上表称臣，陈说天命。魏武帝曰：“此儿欲踞吾著炉炭上邪！”答曰：“汉运垂终，殿下十分天下而有其九，以服事之。权之称臣，天人之意也。虞、夏、殷、周不以谦让者，畏天知命也。”

魏国既建，迁太子中庶子。每与大谋，辄有奇策，为

太子所信重，与陈群、吴质、朱乐号曰四友。迁为军司马，言于魏武曰：“昔箕子陈谋，以食为首。今天下不耕者盖二十余万，非经国远筹也。虽戎甲未卷，自宜且耕且守。”魏武纳之，于是务农积谷，国用丰贍。帝又言荆州刺史胡修粗暴，南乡太守傅方骄奢，并不可居边。魏武不之察。及蜀将关羽围曹仁于樊，于禁等七军皆没，修、方果降羽，而仁围甚急焉。是时汉帝都许昌，魏武以为近贼，欲徙河北。帝谏曰：“禁等为水所没，非战守之所失，于国家大计未有所损，而便迁都，既示敌以弱，又淮沔之人大不安矣。孙权、刘备，外亲内疏，羽之得意，权所不愿也。可喻权所，令掎其后，则樊围自解。”魏武从之。权果遣将吕蒙西袭公安，拔之，羽遂为蒙所获。

魏武以荆州遗黎及屯田在颍川者逼近南寇，皆欲徙之。帝曰：“荆楚轻脱，易动难安。关羽新破，诸为恶者藏窜观望。今徙其善者，既伤其意，将令去者不敢复还。”从之。其后诸亡者悉复业。及魏武薨于洛阳，朝野危惧。帝纲纪丧事，内外肃然。乃奉梓宫还鄆。

魏文帝即位，封河津亭侯，转丞相长史。会孙权帅兵西过，朝议以樊、襄阳无谷，不可以御寇。时曹仁镇襄阳，请召仁还宛。帝曰：“孙权新破关羽，此其欲自结之时也，必不敢为患。襄阳水陆之冲，御寇要害，不可弃也。”言竟不从。仁遂焚弃二城，权果不为寇，魏文悔之。及魏受汉禅，以帝为尚书。顷之，转督军、御史中丞，封安国乡侯。

黄初二年，督军官罢，迁侍中、尚书右仆射。

五年，天子南巡，观兵吴疆。帝留镇许昌，改封向乡侯，转抚军、假节，领兵五千，加给事中、录尚书事。帝固辞。天子曰：“吾于庶事，以夜继昼，无须臾宁息。此非以为荣，乃分忧耳。”

六年，天子复大兴舟师征吴，复命帝居守，内镇百姓，外供军资。临行，诏曰：“吾深以后事为念，故以委卿。曹参虽有战功，而萧何为重。使吾无西顾之忧，不亦可乎！”天子自广陵还洛阳，诏帝曰：“吾东，抚军当总西事；吾西，抚军当总东事。”于是帝留镇许昌。及天子疾笃，帝与曹真、陈群等见于崇华殿之南堂，并受顾命辅政。诏太

子曰：“有间此三公者，慎勿疑之。”明帝即位，改封舞阳侯。及孙权围江夏，遣其将诸葛瑾、张霸并攻襄阳，帝督诸军讨权，走之。进击，败瑾，斩霸，并首级千余。迁骠骑将军。

太和元年六月，天子诏帝屯于宛，加督荆、豫二州诸军事。初，蜀将孟达之降也，魏朝遇之甚厚。帝以达言行倾巧，不可任，骤谏，不见听，乃以达领新城太守，封侯，假节。达于是连吴固蜀，潜图中国。蜀相诸葛亮恶其反覆，又虑其为患。达与魏兴太守申仪有隙，亮欲促其事，乃遣郭模诈降，过仪，因漏泄其谋。达闻其谋漏泄，将举兵。帝恐达速发，以书喻之曰：“将军昔弃刘备，迁身国家，国家委将军以疆场之任，任将军以图蜀之事，可谓心贯白日。蜀人愚智，莫不切齿于将军。诸葛亮欲相破，惟苦无路耳。模之所言，非小事也，亮岂轻之而令宣露，此殆易知耳。”达得书大喜，犹与不决。帝乃潜军进讨。诸将言达与二贼交构，宜观望而后动。帝曰：“达无信义，此其相疑之时也，当及其未定促决之。”乃倍道兼行，八日到其城下。吴蜀各遣其将向西城安桥、木阑塞以救达，帝分诸将距之。初，达与亮书曰：“宛去洛八百里，去吾一千二百里，闻吾举事，当表上天子，比相反覆，一月间也，则吾城已固，诸军足办。则吾所在深险，司马公必不自来；诸将来，吾无患矣。”及兵到，达又告亮曰：“吾举事，八日而兵至城下，何其神速也！”上庸城三面阻水，达于城外为木栅以自固。帝渡水，破其栅，直造城下。八道攻之，旬有六日，达甥邓贤、将李辅等开门出降。斩达，传首京师。俘获万余人，振旅还于宛。乃劝农桑，禁浮费，南土悦附焉。初，申仪久在魏兴，专威疆场，辄承制刻印，多所假授。达既诛，有自疑心。时诸郡守以帝新克捷，奉礼求贺，皆听之。帝使人讽仪，仪至，问承制状，执之，归于京师。又徙孟达余众七千余家于幽州。蜀将姚静、郑他等帅其属七千余人来降。时边郡新附，多无户名，魏朝欲加隐实。属帝朝于京师，天子访之于帝。帝对曰：“贼以密网束下，故下弃之。宜弘以大纲，则自然安乐。”又问二虏宜讨，何者为先？对曰：“吴以中国不习水战，故敢散居东关。凡攻敌，必扼其喉而搯其心。夏口、东关，贼之心喉。若为陆军以向皖城，引权东下，为水战军向夏口，乘其虚而击之，此神兵从天而坠，破之必矣。”天子并然之，复命屯于宛。

四年，迁大将军，加大都督、假黄钺，与曹真伐蜀。帝自西城斫山开道，水陆并进，溯沔而上，至于朐忍，拔其新丰县。军次丹口，遇雨，班师。明年，诸葛亮寇天水，围将军贾嗣、魏平于祁山。天子曰：“西方有事，非君莫可付者。”乃使帝西屯长安，都督雍、梁二州诸军事，统车骑将军张郃、后将军费曜、征蜀护军戴凌、雍州刺史郭淮等讨亮。张郃劝帝分军往雍、郿为后镇，帝曰：“料前军独能当之者，将军言是也。若不能当，而分为前后，此楚之三军所以为黥布禽也。”遂进军鹑觚。亮闻大军且至，乃自帅众将芟上邽之麦。诸将皆惧，帝曰：“亮虑多决少，必安营自固，然后芟麦。吾得二日兼行足矣。”于是卷甲晨夜赴之。亮望尘而遁。帝曰：“吾倍道疲劳，此晓兵者

之所贪也。亮不敢据渭水，此易与耳。”进次汉阳，与亮相遇，帝列阵以待之。使将牛金轻骑饵之，兵才接而亮退，追至祁山。亮屯卤城，据南北二山，断水为重围。帝攻拔其围，亮宵遁。追击，破之，俘斩万计。天子使使者劳军，增封邑。时军师杜袭、督军薛悝皆言，明年麦熟，亮必为寇，陇右无谷，宜及冬豫运。帝曰：“亮再出祁山，一攻陈仓，挫衄而反。纵其后出，不复攻城，当求野战，必在陇东，不在西也。亮每以粮少为恨，归必积谷，以吾料之，非三稔不能动矣。”于是表徙冀州农夫佃上邽，兴京兆、天水、南安监冶。

青龙元年，穿成国渠，筑临晋陂，溉田数千顷，国以充实。

二年，亮又率众十余万出斜谷，垒于郿之渭水南原。天子忧之，遣征蜀护军秦朗督步骑二万，受帝节度。诸将欲往渭北以待之，帝曰：“百姓积聚皆在渭南，此必争之地也。”遂引军而济，背水为垒。因谓诸将曰：“亮若勇者，当出武功依山而东，若西上五丈原，则诸军无事矣。”亮果上原，将北渡渭，帝遣将军周当屯阳遂以饵之。数日，亮不动。帝曰：“亮欲争原而不向阳遂，此意可知也。”遣将军胡遵、雍州刺史郭淮共备阳遂，与亮会于积石，临原而战，亮不得进，还于五丈原。会有长星坠亮之垒，帝知其必败，遣奇兵掩亮之后，斩五百余级，获生口千余，降者六百余人。时朝廷以亮侨军远寇，利在急战，每命帝持重，以候其变。亮数挑战，帝不出，因遣帝中幅妇人之饰。帝怒，表请决战，天子不许，乃遣骨鲠臣卫尉辛毗杖节为军师以制之。后亮复来挑战，帝将出兵以应之，毗杖节立军门，帝乃止。初，蜀将姜维闻毗来，谓亮曰：“辛毗杖节而至，贼不复出矣。”亮曰：“彼本无战心，所以固请者，以示武于其众耳。将在军，君命有所不受，苟能制吾，岂千里而请战邪！”帝弟孚书问军事，帝复书曰：“亮志大而不见机，多谋而少决，好兵而无权，虽提卒十万，已堕吾画中，破之必矣。”与之对垒百余日，会亮病卒，诸将烧营遁走，百姓奔告，帝出兵追之。亮长史杨仪反旗鸣鼓，若将距帝者。帝以穷寇不之逼，于是杨仪结阵而去。经日，乃行其营垒，观其遗事，获其图书、粮谷甚众。帝审其必死，曰：“天下奇才也。”辛毗以为尚未可知。帝曰：“军家所重，军书密计、兵马粮谷，今皆弃之，岂有人捐其五藏而可以生乎？宜急追之。”关中多蒺藜，帝使军士二千人著软材平底木屐前行，蒺藜悉著屐，然后马步俱进。追到赤岸，乃知亮死。帝问，时百姓为之谚曰：“死诸葛走生仲达。”帝闻而笑曰：“吾便料生，不便料死故也。”先是，亮使至，帝问曰：“诸葛公起居何如，食可几米？”对曰：“三四升。”次问政事，曰：“二十罚已上皆自省览。”帝既而告人曰：“诸葛孔明其能久乎！”竟如其言。亮部将杨仪、魏延争权，仪斩延，并其众。帝欲乘隙而进，有诏不许。

三年，迁太尉，累增封邑。蜀将马岱入寇，帝遣将军牛金击走之，斩千余级。武都氏王苻双、强端帅其属六千余人来降。关东饥，帝运长安粟五百万斛于京师。

四年，获白鹿，献之。天子曰：“昔周公旦辅成王，有

素雉之贡。今君受陕西之任，有白鹿之献，岂非忠诚协符，千载同契，俾义邦家，以永厥休邪！”及辽东太守公孙文懿反，征帝诣京师。天子曰：“此不足以劳君，事欲必克，故以相烦耳。君度其行何计？”对曰：“弃城预走，上计也。据辽水以距大军，次计也。坐守襄平，此成擒耳。”天子曰：“其计将安出？”对曰：“惟明者能深度彼己，豫有所弃，此非其所及也。今悬军远征，将谓不能持久，必先距辽水而后守，此中下计也。”天子曰：“往还几时？”对曰：“往百日，还百日，攻百日，以六十日为休息，一年足矣。”是时大修宫室，加之以军旅，百姓饥弊。帝将即戎，乃谏曰：“昔周公营洛邑，萧何造未央，今宫室未备，臣之责也。然自河以北，百姓困穷，外内有役，势不并兴，宜假绝内务，以救时急。”

景初二年，帅牛金、胡遵等步骑四万发自京都。车驾送出西明门。诏弟孚、子师送过温，赐以谷帛牛酒，敕郡守典农以下皆往会焉。见父老故旧，宴饮累日。帝叹息，怅然有感，为歌曰：“天地开辟，日月重光。遭遇际会，毕力遐方。将扫群秽，还过故乡。肃清万里，总齐八荒。告成归老，待罪舞阳。”遂进师，经孤竹，越碣石，次于辽水。文懿果遣步骑数万，阻辽隧，坚壁而守，南北六七十里，以距帝。帝盛兵多张旗帜，出其南，贼尽锐赴之。乃泛舟潜济以出其北，与贼营相逼，沈舟焚梁，傍辽水作长围，弃贼而向襄平。诸将言曰：“不攻贼而作围，非所以示众也。”帝曰：“贼坚营高垒，欲以老吾兵也。攻之，正入其计，此王邑所以耻过昆阳也。古人曰，敌虽高垒，不得不与我战者，攻其所必救也。贼大众在此，则巢窟虚矣。我直指襄平，则人怀内惧，惧而求战，破之必矣。”遂整阵而过。贼见兵出其后，果邀之。帝谓诸将曰：“所以不攻其营，正欲致此，不可失也。”乃纵兵逆击，大破之，三战皆捷。贼保襄平，进军围之。初，文懿闻魏师之出也，请教于孙权。权亦出兵遥为之声援，遣文懿书曰：“司马公善用兵，变化若神，所向无前，深为弟忧之。”会霖潦，大水，平地数尺，三军恐，欲移营。帝令军中敢有言徙者斩。都督令史张静默令，斩之，军中乃定。贼恃水，樵牧自若。诸将欲取之，皆不听。司马陈圭曰：“昔攻上庸，八部并进，昼夜不息，故能旬之半，拔坚城，斩孟达。今者远来而更安缓，愚窃惑焉。”帝曰：“孟达众少而食支一年，吾将士四倍于达而粮不淹月，以一月图一年，安可不速？以四击一，正令半解，犹当为之。是以不计死伤，与粮竞也。今贼众我寡，贼饥我饱，水雨乃尔，功力不设，虽当促之，亦何所为。自发京师，不忧贼攻，但恐贼走。今贼粮垂尽，而围落未合，掠其牛马，抄其樵采，此故驱之走也。夫兵者诡道，善因事变。贼凭众恃雨，故虽饥困，未肯束手，当示无能以安之。取小利以惊之，非计也。”朝廷闻师遇雨，咸请召还。天子曰：“司马公临危制变，计日擒之矣。”既而雨止，遂合围。起土山地道，楯橹钩楯，发矢石雨下，昼夜攻之。时有长星，色白，有芒鬣，自襄平城西南流于东北，坠于梁水，城中震慑。文懿大惧，乃使其所署相国王建、御史大夫柳甫乞降，请解围而缚。不许，执建等，皆斩之。檄告文懿曰：“昔楚郑列国，而郑

伯犹肉袒牵羊而迎之。孤为王人，位则上公，而建等欲孤解围退舍，岂楚郑之谓邪！二人老耄，必传言失旨，已相为斩之。若意有未已，可更遣年少有明决者来。”文懿复遣侍中卫演乞克日送任。帝谓演曰：“军事大要有五，能战当战，不能战当守，不能守当走，余二事惟有降与死耳。汝不肯面缚，此为决就死也，不须送任。”文懿攻南围突出，帝纵兵击败之，斩于梁水之上星坠之所。既入城，立两标以别新旧焉。男子年十五已上七千余人皆杀之，以为京观。伪公卿已下皆伏诛，戮其将军毕盛等二千余人。收户四万，口三十余万。初，文懿篡其叔父恭位而囚之。及将反，将军纶直、贾范等苦谏，文懿皆杀之。帝乃释恭之囚，封直等之墓，显其遗嗣。令曰：“古之伐国，诛其鲸鲵而已，诸为文懿所诬误者，皆原之。中国人欲还旧乡，恣听之。”时有兵士寒冻，乞襦，帝弗之与。或曰：“幸多故襦，可以赐之。”帝曰：“襦者官物，人臣无私施也。”乃奏军人年六十已上者罢遣千余人，将吏从军死亡者致丧还家。遂班师。天子遣使者劳军于蓟，增封食昆阳，并前二县。初，帝至襄平，梦天子枕其膝，曰：“视吾面。”俯视有异于常，心恶之。先是，诏帝便道镇关中；及次白屋，有诏召帝，三日之间，诏书五至。手诏曰：“间侧息望到，到便直排闥入，视吾面。”帝大遽，乃乘追锋车昼夜兼行，自白屋四百余里，一宿而至。引入嘉福殿卧内，升御床。帝流涕问疾，天子执帝手，目齐王曰：“以后事相托。死乃复可忍，吾忍死待君，得相见，无所复恨矣。”与大将军曹爽并受遗诏辅少主。及齐王即帝位，迁侍中、持节、都督中外诸军、录尚书事，与爽各统兵三千人，共执朝政，更直殿中，乘舆入殿。爽欲使尚书奏事先由己，乃言于天子，徙帝为大司马。朝议以为前后大司马累薨于位，乃以帝为太傅。入殿不趋，赞拜不名，剑履上殿，如汉萧何故事。嫁娶丧葬取给于官，以世子师为散骑常侍，子弟三人列为列侯，四人为骑都尉。帝固让子弟官不受。

魏正始元年春正月，东倭重译纳贡，焉耆、危须诸国，弱水以南，鲜卑名王，皆遣使来献。天子归美宰辅，又增帝封邑。初，魏明帝好修宫室，制度靡丽，百姓苦之。帝自辽东还，役者犹万余人，雕玩之物动以千计。至是皆奏罢之，节用务农，天下欣赖焉。

二年夏五月，吴将全琮寇芍陂，朱然、孙伦围樊城，诸葛瑾、步骘掠祖中，帝请自讨之。议者咸言，贼远来围樊，不可卒拔。挫于坚城之下，有自破之势，宜长策以御之。帝曰：“边城受敌而坐安庙堂，疆场骚动，众心疑惑，是社稷之大忧也。”六月，乃督诸军南征，车驾送出津阳门。帝以南方暑湿，不宜持久，使轻骑挑之，然不敢动。于是休战士，简精锐，募先登，申号令，示必攻之势。吴军夜遁走，追至三关口，斩获万余人，收其舟船军资而还。天子遣侍中常侍劳军于宛。秋七月，增封食鄢、临颖，并前四县，邑万户，子弟十一人皆为列侯。帝勋德日盛，而谦恭愈甚。以太常常林乡邑旧齿，见之每拜。恒戒子弟曰：“盛满者道家之所忌，四时犹有推移，吾何德以堪之。损之又损之，庶可以免乎？”

三年春，天子追封，谥皇考京兆尹为舞阳成侯。三月，

奏穿广漕渠，引河入汴，溉东南诸陂，始大佃于淮北。先是，吴遣将诸葛恪屯皖，边鄙苦之，帝欲自击恪。议者多以贼据坚城，积谷，欲引致官兵，今悬军远攻，其救必至，进退不易，未见其便。帝曰：“贼之所长者水也，今攻其城，以观其变。若用其所长，弃城奔走，此为庙胜也。若敢固守，湖水冬浅，船不得行，势必弃水相救，由其所短，亦吾利也。”

四年秋九月，帝督诸军击诸葛恪，车驾送出津阳门。军次于舒，恪焚烧积聚，弃城而遁。帝以灭贼之要，在于积谷，乃大兴屯守，广开淮阳、百尺二渠，又修诸陂于颍之南北，万余顷。自是淮北仓庾相望，寿阳至于京师，农官屯兵连属焉。

五年春正月，帝至自淮南，天子使持节劳军。尚书邓扬、李胜等欲令曹爽建立功名，劝使伐蜀。帝止之，不可，爽果无功而还。

六年秋八月，曹爽毁中垒中坚营，以兵属其弟中领军羲，帝以先帝旧制禁之不可。冬十二月，天子诏帝朝会乘舆升殿。

七年春正月，吴寇祖中，夷夏万余家避寇北渡沔。帝以沔南近贼，若百姓奔还，必复致寇，宜权留之。曹爽曰：“今不能修守沔南而留百姓，非长策也。”帝曰：“不然。凡物致之安地则安。危地则危。故兵书曰‘成败，形也；安危，势也’。形势，御众之要，不可以不审。设令贼以二万人断沔水，三万人与沔南诸军相持，万人陆梁祖中，将何以救之？”爽不从，卒令还南。贼果袭破祖中，所失万计。

八年夏四月，夫人张氏薨。曹爽用何晏、邓扬、丁谧之谋，迁太后于永宁宫，专擅朝政，兄弟并典禁兵，多树亲党，屡改制度。帝不能禁，于是与爽有隙。五月，帝称疾不与政事。时人谓之谣曰：“何、邓、丁，乱京城。”

九年春三月，黄门张当私出掖庭才人石英等十一人，与曹爽为伎人。爽、晏谓帝疾笃，遂有无君之心，与当密谋，图危社稷，期有日矣。帝亦潜为之备，爽之徒属亦颇疑帝。会河南尹李胜将莅荆州，来候帝。帝诈疾笃，使两婢侍，持衣衣落，指口言渴，婢进粥，帝不持杯饮，粥皆流出霑胸。胜曰：“众情谓明公旧风发动，何意尊体乃尔！”帝使声气才属，说“年老枕疾，死在旦夕。君当屈并州，并州近胡，善为之备。恐不复相见，以子师、昭兄弟为托。”胜曰：“当还忝本州，非并州。”帝乃错乱其辞曰：“君方到并州。”胜复曰：“当忝荆州。”帝曰：“年老意荒，不解君言。今还为本州，盛德壮烈，好建功勋！”胜退告爽曰：“司马公尸居余气，形神已离，不足虑矣。”他日，又言曰：“太傅不可复济，令人怆然。”故爽等不复设备。

嘉平元年春正月甲午，天子谒高平陵，爽兄弟皆从。是日，太白袭月。帝于是奏永宁太后，废爽兄弟。时景帝为中护军，将兵屯司马门。帝列阵阙下，经爽门。爽帐下督严世上楼，引弩将射帝，孙资止之曰：“事未可知。”三注三止，皆引其肘不得发。大司农桓范出赴爽，蒋济言于帝曰：“智囊往矣。”帝曰：“爽与范内疏而智不及，弩马恋栈豆，必不能用也。”于是假司徒高柔节，行大将军事，

领爽营，谓柔曰：“君为周勃矣。”命太仆王观行中领军，摄羲营。帝亲帅太尉蒋济等勒兵出迎天子，屯于洛水浮桥，上奏曰：“先帝诏陛下、秦王及臣升于御床，握臣臂曰‘深以后事为念’。今大将军爽背弃顾命，败乱国典，内则僭拟，外专威权。群官要职，皆置所亲；宿卫旧人，并见斥黜。根据盘牙，纵恣日甚。又以黄门张当为都监，专共交关，伺候神器。天下汹汹，人怀危惧。陛下便为寄坐，岂得久安？此非先帝诏陛下及臣升御床之本意也。臣虽朽迈，敢忘前言。昔赵高极意，秦是以亡；吕霍早断，汉祚永延。此乃陛下之殷鉴，臣授命之秋也。公卿群臣皆以爽有无君之心，兄弟不宜典兵宿卫，奏皇太后，皇太后敕如奏施行。臣辄敕主者及黄门令罢爽、羲，训吏兵各以本官候就第，若稽留车驾，以军法从事。臣辄力疾将兵诣洛水浮桥，伺察非常。”爽不通奏，留车驾宿伊水南，伐树为鹿角，发屯兵数千人以守。桓范果劝爽奉天子幸许昌，移檄征天下兵。爽不能用，而夜遣侍中许允、尚书陈泰诣帝，观望风旨。帝数其过失，事止免官。泰还以报爽劝之通奏。帝又遣爽所信殿中校尉尹大目谕爽，指洛水为誓，爽意信之。桓范等援引古今，谏说万端，终不能从。乃曰：“司马公正当欲夺吾权耳。吾得以侯还第，不失为富家翁。”范拊膺曰：“坐卿。灭吾族矣！”遂通帝奏。既而有司劾黄门张当，并发爽与何晏等反事，乃收爽兄弟及其党与何晏、丁谧、邓扬、毕轨、李胜、桓范等诛之。蒋济曰：“曹真之勋，不可以不祀。”帝不听。初，爽司马鲁芝、主簿杨综斩关奔爽。及爽之将归罪也，芝、综泣谏曰：“公居伊周之任，挟天子，杖天威，孰敢不从？舍此而欲就东市，岂不痛哉！”有司奏收芝、综科罪，帝赦之，曰：“以劝事君者。”二月，天子以帝为丞相，增封颍川之繁昌、鄢陵、新汲、父城，并前八县，邑二万户，奏事不名。固让丞相。冬十二月，加九锡之礼，朝会不拜。固让九锡。

二年春正月，天子命帝立庙于洛阳，置左右长史，增掾属、舍人满十人，岁举掾属任御史、秀才各一人，增官骑百人，鼓吹十四人，封子彤平乐亭侯，伦安乐亭侯。帝以久疾不任朝请，每有大事，天子亲幸第以諮访焉。兖州刺史令狐愚、太尉王凌贰于帝，谋立楚王彪。

三年春正月，王凌诈言吴人塞涂水，请发兵以讨之。帝潜知其计，不听。夏四月，帝自帅中军，泛舟沿流，九日而到甘城。凌计无所出，乃迎于武丘，面缚水次，曰：“凌若有罪，公当折简召凌，何苦自来邪！”帝曰：“以君非折简之客故耳。”即以凌归于京师。道经贾逵庙，凌呼曰：“贾梁道！王凌是大魏之忠臣，惟尔有神知之。”至项，仰鸩而死。收其余党，皆夷三族，并杀彪。悉录魏诸王公置于郾，命有司监察，不得交关。天子遣侍中韦诞持节劳军于五池。帝至自甘城，天子又使兼大鸿胪、太仆庾斐持节，策命帝为相国，封安平郡公，孙及兄子各一人列为列侯，前后食邑五万户，侯者十九人。固让相国、郡公不受。六月，帝寝疾，梦贾逵、王凌为祟，甚恶之。秋八月戊寅，崩于京师，时年七十三。天子素服临吊，丧葬威仪依汉霍光故事，追赠相国、郡公。弟孚表陈先志，辞郡公及辒辌车。九月庚申，葬于河阴，谥曰文贞，后改谥文宣。先是，

预作终制，于首阳山为土藏，不坟不树；作顾命三篇，敛以时服，不设明器，后终者不得合葬。一如遗命。晋国初建，追尊曰宣王。武帝受禅，上尊号曰宣皇帝，陵曰高原，庙称高祖。

帝内忌而外宽，猜忌多权变。魏武察帝有雄豪志，闻有狼顾相。欲验之。乃召使前行，令反顾，面正向后而身不动。又尝梦三马同食一槽，甚恶焉。因谓太子丕曰：“司马懿非人臣也，必预汝家事。”太子素与帝善，每相全佑，故免。帝于是勤于吏职，夜以忘寝，至于刍牧之间，悉皆临履，由是魏武意遂安。及平公孙文懿，大行杀戮。诛曹爽之际，支党皆夷及三族，男女无少长，姑姊妹女子之适人者皆杀之，既而竟迁魏鼎云。明帝时，王导侍坐。帝问前世所以得天下，导乃陈帝创业之始，用文帝末高贵乡公事。明帝以面覆床曰：“若如公言，晋祚复安得长远！”迹其猜忍，盖有符于狼顾也。

制曰：夫天地之大，黎元为本。邦国之贵，元首为先。治乱无常，兴亡有运。是故五帝之上，居万乘以忧；三王已来，处其忧而为乐。竞智力，争利害，大小相吞，强弱相袭。逮乎魏室，三方鼎峙，干戈不息，氛雾交飞。宣皇以天挺之姿，应期佐命，文以缵治，武以棱威。用人如在己，求贤若不及；情深阻而莫测，性宽绰而能容，和光同尘，与时舒卷，戢鳞潜翼，思属风云。饰忠于已诈之心，延安于将危之命。观其雄略内断，英猷外决，殄公孙于百日，擒孟达于盈旬，自以兵动若神，谋无再计矣。既而拥众西举，与诸葛相持。抑其甲兵，本无斗志，遗其巾帽，方发愤心。杖节当门，雄图顿屈，请战千里，诈欲示威。且秦蜀之人，勇懦非敌，夷险之路，劳逸不同，以此争功，其利可见。而返闭军固垒，莫敢争锋，生怯实而未前，死疑虚而犹遁，良将之道，失在斯乎！文帝之世，辅翼权重，许昌同萧何之委，崇华甚霍光之寄。当谓竭诚尽节，伊傅可齐。及明帝将终，栋梁是属，受遗二主，佐命三朝，既承忍死之托，曾无殉生之报。天子在外，内起甲兵，陵土未乾，遽相诛戮，贞臣之体，宁若此乎！尽善之方，以斯为惑。夫征讨之策，岂东智而西愚？辅佐之心，何前忠而后乱？故晋明掩面，耻欺伪以成功；石勒肆言，笑奸回以定业。古人有云：“积善三年，知之者少，为恶一日，闻于天下。”可不谓然乎！虽自隐过当年，而终见嗤后代。亦犹窃钟掩耳，以众人为不闻；锐意盗金，谓市中为莫睹。故知贪于近者则遗远，溺于利者则伤名；若不损己以益人，则当祸人而福己。顺理而举易为力，背时而动难为功。况以未成之晋基，逼有余之魏祚？虽复道格区宇，德被苍生，而天未启时，宝位犹阻，非可以智竞，不可以力争，虽则庆流后昆，而身终于北面矣。

卷二

帝纪第二

景帝文帝

景皇帝讳师，字子元，宣帝长子也。雅有风采，沈毅多大略。少流美誉，与夏侯玄、何晏齐名。晏常称曰：“惟几也能成天下之务，司马子元是也。”魏景初中，拜散骑常侍，累迁中护军。为选用之法，举不越功，吏无私焉。宣穆皇后崩，居丧以至孝闻。宣帝之将诛曹爽，深谋秘策，独与帝潜画，文帝弗之知也。将发夕乃告之，既而使人觐之，帝寝如常，而文帝不能安席。晨会兵司马门，镇静内外，置阵甚整。宣帝曰：“此子竟可也。”初，帝阴养死士三千，散在人间，至是一朝而集，众莫知所出也。事平，以功封长平乡侯，食邑千户，寻加卫将军。及宣帝薨，议者咸云“伊尹既卒，伊陟嗣事”，天子命帝以抚军大将军辅政。魏嘉平四年春正月，迁大将军，加侍中，持节、都督中外诸军、录尚书事。命百官举贤才，明少长，恤穷独，理废滞。诸葛诞、毌丘俭、王昶、陈泰、胡遵都督四方，王基、州泰、邓艾、石苞典州郡，卢毓、李丰、裴选、傅嘏、虞松参计谋，钟会、夏侯玄、王肃、陈本、孟康、赵鄠、张缉预朝议，四海倾注，朝野肃然。或有请改易制度者，帝曰：“‘不识不知，顺帝之则’，诗人之美也。三祖典制，所宜遵奉；自非军事，不得妄有改革。”

五年夏五月，吴太傅诸葛恪围新城，朝议虑其分兵以寇淮泗，欲戍诸水口。帝曰：“诸葛恪新得政于吴，欲徼一时之利，并兵合肥，以冀万一，不暇复为青徐患也。且水口非一，多戍则用兵众，少戍则不足以御寇。”恪果并力合肥，卒如所度。帝于是使镇东将军毌丘俭、扬州刺史文钦等距之。俭、钦请战，帝曰：“恪卷甲深入，投兵死地，其锋未易当。且新城小而固，攻之未可拔。”遂命诸将高垒以弊之。相持数月，恪攻城力屈，死伤太半。帝乃敕钦督锐卒趋合淝，要其归路，俭帅诸将以为后继。恪惧而遁，钦逆击，大破之，斩首万余级。

正元元年春正月，天子与中书令李丰、后父光禄大夫张缉、黄门监苏铄、永宁署令乐敦、冗从仆射刘宝贤等谋以太常夏侯玄代帝辅政。帝密知之，使舍人王姜以车迎丰。丰见迫，随姜而至，帝数之。丰知祸及，因肆恶言。帝怒，遣勇士以刀钁筑杀之。逮捕玄、缉等，皆夷三族。三月，乃讽天子废皇后张氏，因下诏曰：“奸臣李丰等靖潜庸回，阴构凶慝。大将军纠虔天刑，致之诛辟。周勃之克吕氏，霍光之擒上官，曷以过之。其增邑九千户，并前四万。”帝让不受。天子以玄、缉之诛，深不自安。而帝亦虑难作，潜谋废立，乃密讽魏永宁太后。秋九月甲戌，太后下令曰：“皇帝春秋已长，不亲万机，耽淫内宠，沈嬖女德，日近倡优，纵其丑虐，迎六宫家人留止内房，毁人伦之叙，乱男女之节。又为群小所迫，将危社稷，不可